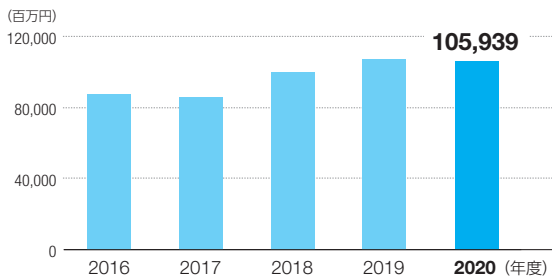


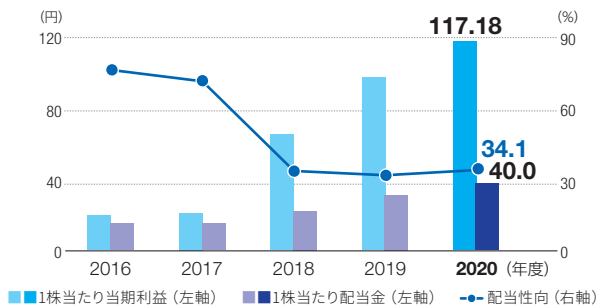
財務・非財務ハイライト

売上高



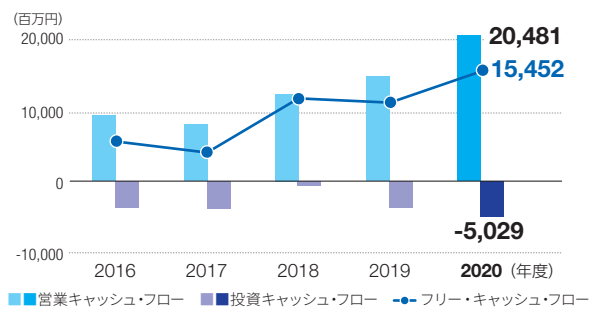
売上高は、105,939百万円（前期比1%減）となりました。通信計測事業においては、5Gチップセット及び携帯端末の開発需要が順調に推移しました。特にアジア地域において、5G商用化に向けた開発需要が拡大し、5Gビジネスを牽引しました。また、データセンター等でのネットワーク高速化に向けた開発・生産関連需要も獲得しました。一方、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、主に日本地域において一部の顧客の投資に慎重な姿勢がみられ前年比減収となりました。また、PQA事業においては、新型コロナウイルス感染拡大に伴う先行きの不透明感から一部の顧客の設備投資に慎重な姿勢が継続し、前年比減収となりました。

1株当たり当期利益／1株当たり配当金・配当性向



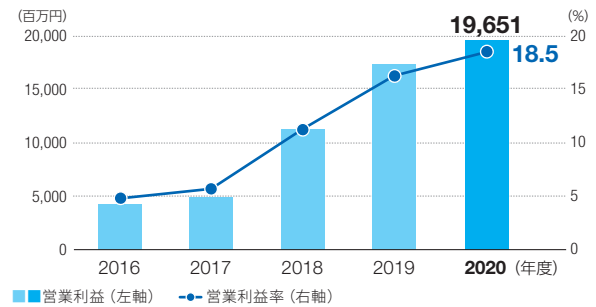
2020年度の1株当たり当期利益は117.18円（前年度比19.98円増）、年間配当金は40円（同9円増）、配当性向は34.1%となりました。連結当期利益の上昇に応じてDOE（親会社所有者帰属持分配当率）を上げることを基本にしつつ、配当性向30%以上を目標としており、期末配当および中間配当の年2回の配当を行う方針です。

キャッシュ・フローの推移



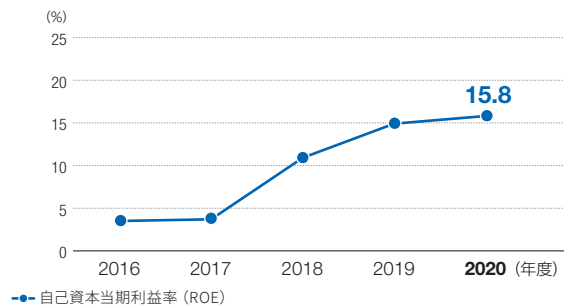
2020年度の営業キャッシュ・フローは、税引前利益ならびに減価償却費および償却費の計上により資金が増加し、結果として20,481百万円のプラスとなりました。投資キャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出が主な要因となり、5,029百万円の支出となりました。その結果、フリー・キャッシュ・フローは15,452百万円のプラスとなりました。

営業利益／営業利益率



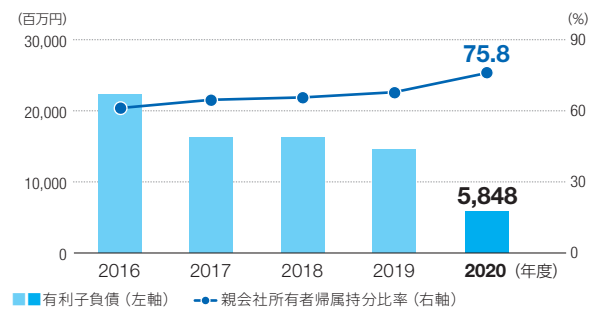
営業利益は、19,651百万円（前年度比12.8%増）、営業利益率は18.5%となりました。通信計測事業は、収益性の高い5G製品の売上が好調だったことに加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、R&D費および販管費が抑制されたことにより、前年同期比増益で、営業利益は、17,714百万円（営業利益率23.7%）となりました。PQA事業は、業務の効率化を促進する等、販管費の削減に取り組んだ結果、前年同期比増益で、営業利益は1,340百万円（同6.3%）となりました。

自己資本当期利益率(ROE)



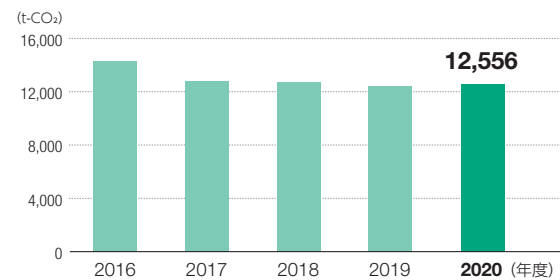
2020年度のROEは15.8%となり順調に資本効率を高めています。アンリツは中長期的な企業価値最大化を図るため、「ROE (Return On Equity)」と「親会社所有者帰属持分比率（自己資本比率）」をKPIと捉え、投下資本の効率性改善と財務の安定性維持に取り組みます。

有利子負債／親会社所有者帰属持分比率



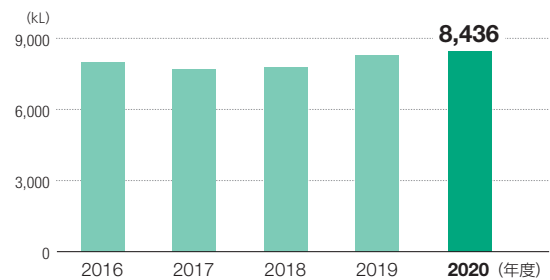
社債を償還したため、有利子負債残高は5,848百万円（前期末比8,746百万円減）となりました。主に利益剰余金が増加した一方、その他の資本の構成要素が増加し、親会社所有者帰属持分比率は75.8%となりました。

CO₂排出量(Scope1+2) (アンリツグループ)



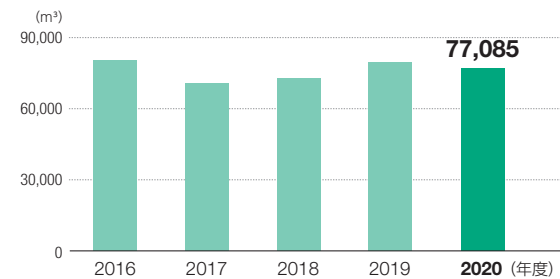
アンリツグループのCO₂排出量(Scope1+2)の98%以上はエネルギー消費によるものですが、2020年度は、右の「エネルギー消費量(原油換算)」で示したことが主原因となっており、Scope1+2は2019年度比0.9%増加の12,556t-CO₂となりました。削減策として、高効率な空調設備への更新に加え、Anritsu Company (米国)への1,100kWの太陽光発電設備の導入・自家消費、東北地区の購入電力の4%をグリーン電力へ切り替えなどの施策を実施しています。

エネルギー消費量(原油換算) (アンリツグループ)



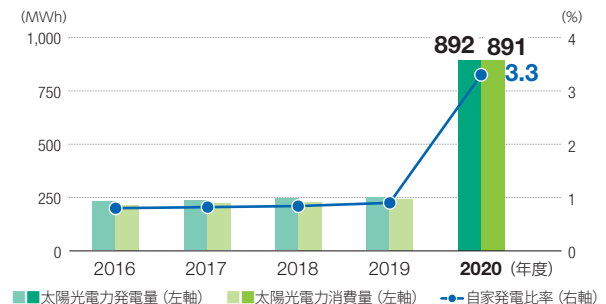
2020年度アンリツグループ全体の総エネルギー消費量(原油換算)は、2019年度比2.0%増加となりました。これは、新型コロナウイルス感染症対策のために空調換気を増やしたことや在宅勤務時に実験装置をリモートコントロールするために24時間稼働したことなどに起因します。

水使用量 (アンリツグループ)



2020年度のアンリツグループの水使用量は、前年度比で3.1%減少しました。これは、新型コロナウイルス感染症拡大の施策とし、グローバルで在宅勤務を実施し、従業員の出勤割合を抑制したことにより、構内の水使用量が減少したことにより起ります。ただし、Anritsu Company (米国)では、多量の水を使用する薄膜デバイスの製造サービスを開始したことなどにより増加しています。

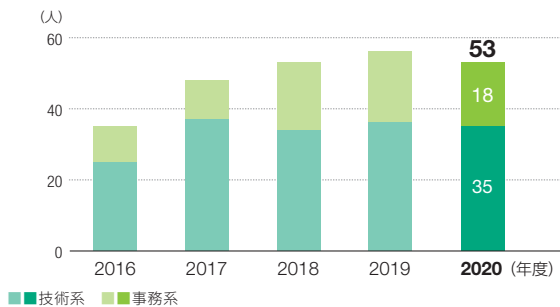
太陽光電力発電量/消費量と自家発電比率 (アンリツグループ)



再生可能エネルギーを重視した「Anritsu Climate Change Action PGRE 30」を策定し、SBT目標の達成を目指しています。Anritsu Company (米国)に1,100kWの太陽光発電を設置し、2020年10月から発電を開始しました。これにより、2020年度の太陽光電力発電量は、前年度から263%増加し、892MWh(自家発電比率:3.3%)となりました。

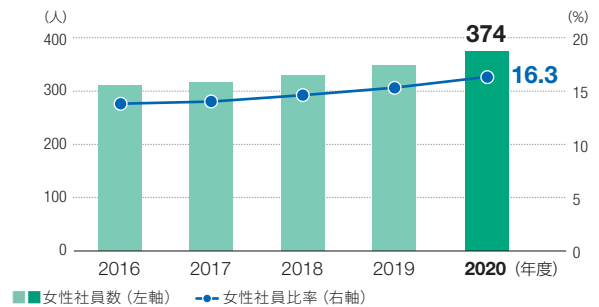
* 太陽光電力消費量=太陽光電力発電量-余剰電力(電力供給会社に無償提供)
自家発電比率=太陽光電力消費量/電力消費量

新卒採用人数 (国内アンリツグループ)



国内アンリツグループの2020年度新卒採用者(2021年4月入社)実績は、技術系35名、事務系18名の合計53名でした。(目標採用人数55名)アンリツグループは、「人数合わせをせず厳選採用」を採用方針としております。新卒採用者は、「全員戦力」を前提に育成しており、2018~2020年度に入社した新卒採用者離職率(3年以内離職率)は3%です。

女性社員数と全社員に占める女性社員の比率 (国内アンリツグループ)



技術職、事務職を問わず、すべての職種でジェンダーを問わない採用を行っています。「2020年度に国内新卒採用に占める女性割合を20%以上にすることを目標に、2020年度の採用活動で女子学生に向けた広報活動などに注力した結果、2021年4月入社の新卒採用者53名のうち女性は13名で、女性の割合は25%となりました。